

# 第1学年 算数科学習指導案

指導案のページ数については任意。  
ただし、各項目については、それぞれ詳しく書くこと。

小学校  
年 組 名  
指導者

1 単元名 ひきざん

「2 単元について」は、下に示す\*1～4の内容を必ず盛り込むこと。

2 単元について

- \*1 児童のこの学習までに至る学習状況の実態と指導のねらい
- \*2 単元内容の系統（他単元や他学年とのつながり）
- \*3 単元の考察（単元の概要と教材観，単元における学習活動の柱となる数学的活動の概要）
- \*4 本時の考察（本時の概要と教材観，本時の目標に迫るための児童の実態に応じた取り組みませたい数学的活動や本時における目指す児童の姿）

数学的活動については、学習指導要領解説算数編の「各学年の内容」における数学的活動の記載内容を熟読すること。

3 単元の目標

（十何）－（1位数）で、繰り下がりのある場合の計算の仕方を理解し計算することができる。

- \*目標は、「おおむね満足できる」状況（B）として設定する。
- \*学習指導要領に示された教科等目標を確認し，学年の目標を分析した上で，学年別の評価の観点の趣旨を踏まえること。

4 単元の評価規準

「3 単元の目標」，「4 単元の評価規準」，「5 単元計画」の文末は，児童を主語として「～できる。」書くこと。

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
繰り下がりのある計算に興味をもち，10といくつという数のしくみを用いるよさに気付き身近な問題に用いようとしている。	被減数を10といくつに分解して，減加法による繰り下がりの考えを見いだすことができる。	（十何）－（1位数）で，繰り下がりのあるひき算ができる。	（十何）－（1位数）で，繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を概ね理解している。

「5 単元計画」のひな形に関しては，国立教育政策研究所「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参照のこと。[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/03\\_sho\\_sansu.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/03_sho_sansu.pdf)

5 単元計画（10時間）

ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）◎は最重点評価項目，○は重点評価項目			
	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
1 本時 （十何）－（1位数）で繰り下がりのあるひき算について計算の仕方を見付けることができる。 ・数図ブロックを操作し，計算方法を考える。		◎数図ブロックを10と3にわけて，10のまとまりから9を取ることができる。（活動の様子，ノート）		
2 （十何）－（1位数）で繰り下がりのあるひき算について計算の仕方をつく			◎数図ブロックを使って，繰り下がりのあるひき算の計算をす	

## 6 本時の学習

### (1) 目標

(十何)－(1位数)で、繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を考えることができる。

\* 学習目標の裏返しが評価規準である。単元の目標のところでも説明したとおり、目標は「おおむね満足できる」状況(B)として設定する。「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」のうち、一つか二つを身に付けさせるような目標にする。

### (2) 展開

学習活動	教師の支援	具体的評価規準 (評価方法)
<p>1 学習のめあてをつかみ、解決方法や結果の見通しを持つ。 かきが13こなっています。9ことると、なんこのこりますか。</p> <p>13－9のけいさんのしかたをかながえよう。</p>	<p>・柿の絵を動的に動かす問題場面の可視化を図ることにより、ひき算の場面であることに気付くことができるようにする。</p>	<p>4観点の中で本時重点を置いている評価をする。例えば、関心・意欲・態度であれば関と記す。あと考、技、知。</p>
<p>2 各自、数図ブロックを使って、計算の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数え引き</li> <li>・補加法</li> <li>・減減法</li> <li>・減加法</li> </ul>	<p>・考えが停滞している児童に対して</p> <p>「教師の支援」の書きぶりとして次の文体を参考にする。なお、現在は「させる。(使役)」は使わない傾向にある。</p> <p>(教師の支援)することにより、(児童が)できるようにする。</p>	<p>考数図ブロックを10と3に分けて、10のまとまりから9を取っている。(活動の様子、ノート)</p>
<p>3 計算の仕方を発表し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと違う計算の仕方を知る。</li> <li>・10のまとまりからひくと考えやすいことをまとめる。</li> </ul>	<p>・減加法で考えている児童の考えを最後に取り上げ、「○○さんの考えは、9をどこからとっているのか」と同意の発問をすることにより、10のまとまりを意識し、そのまとまりからひくよさに気付くことができるようにする。</p>	<p>本時における授業展開の中での評価する具体的な姿を明記すること。また、単元計画との整合性をもたすこと。</p>
<p>4 評価問題を解き、本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価問題に取り組む。</li> <li>15－7</li> <li>・学習の振り返りを各自ノートに書く。</li> </ul>	<p>・評価問題では、ノート上での計算だけでなく、数図ブロックを操作させ、ブロックを10と5に分けて計算できているかどうかを確かめ、できていない児童には、一緒に操作活動をし、10のまとまりから7を取ることができるようにする。</p>	<p>考数図ブロックを10と5にわけて、10のまとまりから7を取っている。(活動の様子、ノート)</p>

### (3) 評価する状況と具体的な支援

「十分満足できる」と判断される状況	繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックを意欲的に操作しながら、いくつかの計算の仕方を考えたり、10のまとまりからひいたりすることができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	数図ブロックを教師と共に操作しながら、問題場面の状況を把握させたり、繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を考えさせたりする。

抽象的な文章ではなく、本時に想定できる授業展開の中での具体的な姿や実現できる具体的な指導を明記すること。また、具体的評価規準の観点数に合わせる。